

会員制情報誌「たのし」に執筆

氏名：西島幸夫 職業：経営コンサルタント（ISO取得支援） 都道府県：東京都

北陸新幹線開業日に金沢に行ったことを小さな会員制情報誌「たのし」に書きました。

特使として私の発信のスタイルです。

早速、いろいろな人に読んでもらっています。

また、特使の名刺と一緒に手交してPRしていきます。

掲載された記事はこちらです



[北陸新幹線開業日に「かがやき」で金沢へ.pdf](#)



北陸新幹線開業日に 「かがやき」で金沢へ

いしかわ観光特使 西島 幸夫

永年待ち望んでいた北陸新幹線が3月14日に開業した。ワクワクしながら初日の東京駅新幹線20番線ホームの9時20分発金沢行「かがやき」に乗り込んだ。新しく延伸した長岳部を走る路線はトンネル、山岳部を金沢まで僅か1時間が多い。糸魚川付近で日本海を少し望むがすぐまたトンネルに入る。昨日まで走っていた北陸線の日本海沿いの親不知海岸の波打ち際風景が見られないのは寂しい。快適な車両で金沢へ2時間30分で直行できるのは、夜行急行で10時間以上もかけて迎り着いた昔を思うと夢のようである。

駅頭を飾る巨大ドームと鼓門

金沢駅兼六園口に出ると、巨大なガラスドームが目に入る。日本最大のアルミ構造の大屋根は、多雨雪の金沢が客人にそっと差し出す傘であり、「もてなしの心」をイメージしている。

駅前のドーム広場は益と正月が一緒に来たような賑やかさで歓迎・祝賀行事の加賀獅子舞や加賀鳶の梯子登りが披露され、笛や太鼓が鳴り響いていた。地元紙の号外が配られ、記念切手も発行された。おそらく金沢開闢以来の一大イベントが、今

繰り広げられているのだと思わせる盛り上がりようだ。ドームの尖端に訪れる人を迎える「鼓門」がある。駅の玄関口を飾る城下町らしさの象徴だ。本誌の主筆 酒井憲一先生はこの「鼓門」に深い関心を示されて、温かい評価を頂いた。金沢が月並みな新幹線都市にならない護符として、伝統と歴史を大事にして金沢らしさを守っていく決意を表わしているのかもしれない。

アメリカの旅行雑誌「トラベルジャーナル」は「世界で最も美しい駅」14駅の一つに選んでいる。祝賀ムードに沸く市中を散策

祝賀ムードに沸く市中を散策

浅野川を渡ったひがし茶屋街を訪ねると観光客で賑わっている。茶屋街の広見(藩政時代の火事除けの広場)では芸伎衆が升に注いだ祝い酒を振る舞っていた。全国でも数少ない茶屋町の風情をよく残している歴史的街並は興趣の尽きない散策コースになっている。

橋場町の裏道・下新町生家跡に建つ泉鏡花記念館を見学した。鏡花は日本近代浪漫主義文学の大家。鏡花が紡いだ幻想世界は生まれ育った金沢が原点だという。わかりやすく解説していた一人者で、話を伺ってもっと作品に親しみたいと思った。夕方、オープン早々の玉泉院

丸庭園へ行った。藩主の内庭を再現した立体感ある庭園だ。百万石の威容を誇る金沢城公園の整備が進んで、新しい見どころが増えた。ライトアップされた夜の兼六園を歩いた。雪吊りの松のシルエットが闇に浮かぶ幽玄の世界だ。

金沢のおでん文化を味わう

金沢の地酒は水が美味しいので口当たりが良く飲みやすい。酒のうまさを生かす料理文化が藩政時代から根付いている。近年、金沢のおでん文化が有名になり、市内に100軒以上もあるという。香林坊のおでん屋「菊一」の暖簾を潜った。店の空間は昔のまま、さながら昭和にタイムスリップする心地だ。壁面の額絵に徳利の絵が描いてあり、「酒があるところが常に春風」の贅が嬉しい。いつも座っている席にご主人がいいため、女将さんに尋ねたら昨秋急逝されたと同じ驚いた。金沢のおでん文化を担ってきた人がいなくなつて淋しい。金沢おでんは独特のおでん種があり、種類も豊富で安く美味い。それほか何軒かはこして金沢にとって歴史的な一日は更けていった。

北陸新幹線時代が到来しますます発展することを願っていますが、いつまでも変わらないことも願った。(おわり)



金沢駅もてなしドーム広場の加賀獅子舞風景



玉泉院丸庭園(金沢城公園の新名所)



ひがしの芸伎衆が祝い酒を振る舞う



金沢駅頭「鼓門」の柱は邦楽の鼓をイメージする